

前回に引き続き、外科兼内視鏡外科長の佐藤佳宏医師にお話を聞いてみましょう。

Q ^{そけい}鼠径ヘルニアについて教えてください。

A おなかに力を入れた時などに鼠径部（太ももや足の付け根部分）で腸の一部が筋膜の間からはみ出てしまい、皮膚がぽこっと飛び出すという症状が現れます。下着でかくれる部分なので、健康診断や内科などの診察では発見されにくく、泌尿器科で下着を外した時に見つかる場合もあります。生まれつきの体質だと思って受診を考えない人も多いのです。大きくなりすぎて我慢できなくなってからの受診や、痛みがひどくなって救急車を呼ぶという人も多くいます。痛みが出るのは、出ている部分が硬くなり戻らなくなる^{かんとん}嵌頓という状態になって血の巡りが悪くなるからです。そのまま6時間が過ぎると腸が壊死してしまうため、腸を切るという結果になりますので、早めに受診するのが良いでしょう。

Q 治療について教えてください。

A 生後6か月までであれば自然治癒はありますが、その後、嵌頓の危険があるため一般に鼠径ヘルニアと診

断したら手術をして治します。体内組織の構造や位置関係などを熟知していないと術後に再発や合併症を起こすため、経験のある外科医でも治しきるのが難しいとされます。当院では、開腹手術よりも手術跡の小さい腹腔鏡手術も行っており、平成25年60件（うち腹腔鏡14件 以下同じ）、26年68件（47件）、27年80件（67件）と、その割合が年々高まっています。腸がはみ出るのを防ぐためのメッシュは、従来のものより術後の違和感、突っ張り感が抑えられる軽くて薄く、柔らかかなものを使用し、患者さんの感じ方にも配慮した治療をしています。介護施設での診療で見つかることもあり、施設の職員にはヘルニアについての意識を持っていただけると、入所者の生活の質の向上につながります。ヘルニアは腹腔鏡手術ができますので、気になる症状がある人は早めの受診をお勧めします。

